

# Must と Have to に関する一考察

四 方 田 敏

## 内 容

- (1) 序 文
- (2) must と have to の原義
- (3) have to の口語性
- (4) must と have to の意味と用法
- (5) 過去の文の間接話法中の must と have to
- (6) 結 び

## (1) 序 文

must と have to が共に necessity と obligation という共通の意義を有し、現代の英米両国語に併存して、動詞の意味を補充したり、又、それにいろいろなニュアンスを与えるのに役立っていることは周知の事実である。これらの両語は意味においては、類似性を有するのであるが、その古さの観点からみるならば、mustの方がはるかに古いのである。この must の最古の例を OED は10世紀の Beowulf という詩から引用している。これに対して、have to の最古の例として、OED が引用しているものは1579年のものであり。その後、1594年と1596年がつづき、それ以後は、1765年迄空白になっている。しかし、OED のこの最古の例より、さらに古いがあるのであって、Jespersen<sup>(1)</sup> は14世紀後期の Chaucer の Canterbury Tales からの例文を示しており、Vander Gaaf は、更に古く、14世紀初期における Cursor Mundi という詩文に、have to の例を見出しているのである。先に述べた must の最古の例の年代から見ると、両語の間に、およそ、400年位の隔りがあるとみられる。しかし、Kirchner<sup>(2)</sup> によれば、「ha-

## Must と Have to に関する一考察

ve to が普通に用いられ始めたのは19世紀の初期からであり、必要の強意的表現として、おそらく、アメリカで始めて確立したものであろう」といわれている。以上述べたことによっても、have toの方が近代性をになった語であることが自づと判明するであろう。以下の論文では、must と have to の現代英語における意味と用法、及び両語に若し、特色があるとすれば、その特性等に中心を置いて、考察を進めて行く所存である。先づ所論を進めるに当って、これら両語の原義について、少しく述べて見たい。

### (2) must と have to の原義

must は元来、'to be allowed to,' to be in position to do something, という意味の動詞 mōtan の過去形の moste から由来したといわれる。従って、原義的には must は「許可」と「可能」をあらわしているといえるのである。そして、この原意から、「必要」と「義務」の意味の分化が生じたものと想定される。そして、現代の must の意味に、前者の意味が生き残っていることは注意されてよいであろう。「肯定の may と否定の must not はしばしば一緒に用いられる」<sup>(3)</sup> 例えば、your labour only may be sold; your soul must not と書かれる。又「must not の後の付加疑問にさえ may が用いられる」<sup>(4)</sup> という。例えば、I must not tell, may I, Elinor? の様な文もある。以上、見て来た様に、主に否定形に、「許可」の意味が表わされると考えらるべきであるが、OED には方言の中に、if I must (=if I may) や Must I...? (=May I...?) の様な肯定文の中で「許可」の意を表わす must の用法があることが記されている。以上述べて来たように、二面的な意味をになっている点に、must の特徴があるように思われて、興味を感じられるのである。次に、have to について考えてみる。この have to 構造が、I have something to do のような構文から発生したことは明らかである。そしてこの構文から、some business I have to do や what I have to do のような中間的な構文を経て、I have to do something. のような、have と to~infinitive の連続形が生じたことはたしかなことであろう。そして、この構造の

## Must と Have to に関する一考察

意味を考えれば、「私は或る事を為すべきことを（義務を）持つ」ということになって、単に「必要」と「義務」を表わすに止まるであろう。そしてこの「必要」は、must にくらべて、より客観的な必要を表わすように、筆者には思えるのである。もっとも、Kirchner<sup>(5)</sup>によれば、この have が「さしつかえない」というドイツ語の dürfen を意味する場合があるといわれる。それは have not to という否定形の場合に起こるのであるが、この have not to = may(must) not となる場合は、先づ rare であると思われるのである。そして、最後に結論としていえることは、mustの方が、have to より、より意味深長な語であるということであろう。

### (3) have to の口語性

ここでは、筆者は話し言葉の中において、must と have to とがどれくらい使用されるものであるかを知るために、Graham Greene の戯曲“The Compliant Lover”の会話文の中に出てくる両語の頻度数を調べて見ることにした。その結果、have to が50例みられたのに対して、must はわずか5例に止まった。丁度、10対1の割合である。これによって、have to が、must に比して口語性が強い語であることが或る程度明らかになったと言えるであろう。

次にその例文を若干示すことにする。

#### (a) have to の例

- 1) You have to pass an initiation-ceremony in this house.
- 2) I don't see why you have to analyse everything.
- 3) I have to gag him or we'd never get our business done.
- 4) Robin's got to have three teeth out.
- 5) We'd have to wait a month for another.
- 6) One has to know what to put in and what to leave out.
- 7) We've got to keep your hand steady for the sake of your patients.
- 8) It would have to be a city because then I can get a business allowa-

## Must と Have to に関する一考察

nce.

- 9) Please do you have to bring denistry into everything?
- 10) Please, Victor, if it has to be a city I'd rather go to Amsterdam.
- 11) Clive, it's got to be Amesterdam.
- 12) Why do you all have to make up verses about her?
- 13) I don't have to report for an hour. When do you have to report?
- 14) Clive, how many times do I have to swear to you that Victor and I aren't lovers?
- 15) You'll have to take it through yourself now.
- 16) We've got to spread the party.
- 17) Why does everybody have to make up rhymes about her?
- 18) Do I have to sleep with another man before you do that?
- 19) If you took Clive on, you'd have to learn to love where you don't trust.
- 20) IfI have to choose...

(b) must の例

- 1) My wife always pretends it's I who must see them.
- 2) I must go down, Clive. It's all right, isn't it now.
- 3) It must be. He's the only man I know in Holland.
- 4) Must be poliet.
- 5) No thank you. I must get back.

### (4) must と have to の意味と用法

ここでは、must と have to が英語の文中において、具体的にどのような意味を表わしているか、又どのような機能を持っているかについて考察してみることにする。Webster の大辞典をみると、must については、先づ、第一の意味とし

### Must と Have to に関する一考察

て、(a) is commanded to or requested to と説明され、次に (b) is urged to, ought by all means to と記されている。又 have to については、to be compelled or under obligation or necessity と説明されている。ここに、must と have to の原則的な意義の区別がなされていると思われるのである。従って、must には話者の意向が極めてはっきりと表わされる。いくつか例を示す。

- 1) You must help us now because we don't know where to go. (Moravia, Two Women)
- 2) You must give me some advice. (ibid)
- 3) 'You must give us introductions about what we should do to get there.'  
(ibid)
- 4) "My Daddy must carry me" (Mansfield, Sun and Moon)
- 5) they decided that Edward's future must stand before everything. (Maugham, The Fall of Edward Barnard)

次に have to の例を示すがそれは、話者とは関係のない客観的な外的な必要を表わすと考えてよい。

- 1) All of them people who have to work hard for a living. (Moravia, Two Women)
- 2) in these times every man has to think first of all his family (ibid)
- 3) You can join the army at lighten. You have to be over five foot eight. (Lawrence, The Rainbow)
- 4) When the river is foggy, the boats have to bring up at night. (岩波、新英和)

しかし、ここにおいて Curme<sup>(6)</sup> の述べている見解を看過してはならないと筆者は思う。「have to と have got to とは、大抵の場合、外的事情による客観的の必要を表わすが、それらは、その客観的の必要が他の者の意志によることを表示する場合が時々ある」と Curme は説いている。又 must よりも、have to を使う方が話者の意向が丁寧を表わされるとも述べている。要するに、have to が mo-

dal (法的) な性格を有するというのが Curme の見解である。そして 'I order it and you have to do it; this is my last word.' のような例文を Curme は示している。Jespersen, Poutsma や Kruisinga もこのような説を述べてはいないのであるが、筆者は、この Curme の意見は否定できないと思う。それは次のような例文が見出されるからである。('Choose your girl, Cuddy. You've got to choose her now. (Lawrence, Tickets, Please)

しかし、ここで言わねばならぬことは、have to の場合には、そこに、話者の意向が表示されていることが、必ずしもはっきりと判別できない場合があるということである。この点、must は極めて鮮明な法的性格を有しているのであって、矢張り、その特色たるを失はぬといい得ると思う。must が、はっきりした話者の意向を表わすということから、それが、往々にして「直接的」な命令を意味することになるのは肯ける。Curme が have to の方が、よりおだやかな言い方であるといったのも当然である。

前述したように、must は元来、過去時制を表わす過去形であったのだが、それが現在の意味を表わすようになった事情を此処において顧みても興味深いことである。これについて、C.T. Onions<sup>(7)</sup> は「その (mustの) 現在時制としての用法は、現在のことをいう仮定法過去の用法に由来する」と述べている。すなわち、He must go は He would be bound to go (if…) なのであって、この仮定法を用いることによって、polite ないい方にしようという意図があったといわれる。OED もこれに関して、「The use as a present arose from the practice of employing the past subj. as a moderate, cautious, or polite substitute for the present indicative」と述べ、又 Sweet も「It (=must) began with the use of the pret. subj. to express mild command」といっている。過去形 mustの現在用法については、諸家の意見が一致しているとみてよいのである。因みに、この用法の must の最初の出現を OED は1300年と記している。そしてこの must の用法が大体確立をみるに至ったのは15世紀の後半頃であるとされている<sup>(8)</sup>。しかし、ともあれ、前述したように、この must が、当初の意図

### Must と Have to に関する一考察

から外れて、現在では、率直な、*rude* な感じを持つ語になったことは否めないであろう。次のような例は *must* のこの感じをよく表わしている。

“Do, do tell us” said the others “you must tell us.” (Mansfield, *Marriage A La Mode*) “Must be polite” (Greene, *The Complaisant Lover*)

後の例では、*you* を省いて、いきなり *must* から始めている。これはホテルの客が、そのボーイに向かって言った言葉であって、かなり命令口調のきつい、いい方のように思われる。このように、*you must...* に、話者の意向が強く表わされることと関連して、第一人称を主語とする *must* にも、この意向が、はっきりと強く表われてくるのは、極めて当然なことである。

- 1) I *absolutely* must do something. (Henry James, *The Real Thing*)
- 2) Eleanor's dog. I must save her *at any cost*. (Foster, *Where Angels Fear to Tread*)
- 3) Let her insult me. Let her spit on me. She has an immortal soul, and I must *all that is in my power* to save it. (Maugham, *Rain*)
- 4) I decided, *with a supreme effort*, that we must do something. (Moravia, *Two Women*)
- 5) We must all help dear Edward *in every way we can*. (Maugham, *Cakes and Ale*)
- 6) But I want to kill, I must. (ibid)

イタリックの所が、それぞれ、強調語句を表わしているが、例文5は *must* の所が原文の英語でイタリックで書かれていることに注意されたい。そして、もちろん、主語の *I* の強烈な意欲が表わされている。この *must* の用法は又、一人称以外の他の人称にも、転用されることがしばしば起る。次に若干の例を示してみる。

- 1) We tried to get him to sit in one of them easy chairs but no, he must sit up at the bar. (Maugham)
- 2) He did not believe in the least in the education he kept inflicting

### Must と Have to に関する一考察

year after year upon the children. So he must bully, only bully, even while it tortured his strong, wholesome nature with shame like a spur always galling. He was so blind and ugly and out of place.

(Lawrence, *The Rainbow*)

3) Always everything was subordinated now to this one desire to take her place in the world. What kind of place it was to be she did not ask herself. The blind desire drove her on. She must take her place.

(*ibid*)

4) Then suddenly, looking at a sunset, she wanted to go. She must be gone. She must be gone at once. (*ibid*)

5) When he felt as though he must drink, he came to me. (Maugham, *Before the Party*)

以上の例文中、例2と例3は、盲目的な欲望というような人間の内部から突き上げられる、烈しい、しかも非合理的な意向を must は表わしているといえる。又例4のように、人間の意志を強調的に表わす場合に must は用いられることもある。上記の例文はすべて過去の文中における must の例文である。もちろん現在文中における例文、let us leave this room, if you must laugh, for he will overhear you. (OED) の例文もあるが、must が過去の文で用いられていることが、大切な意味を持つ。すなわち、had to でこのような強烈な意志や、欲望を表わすことはないように思われる。しかし、ここにおいて、以上述べた must の用法と異なる must の用法があることを見過すべきではない。must は意味用法の範囲がかなり広い助動詞である。次の例文における must は意向とは関係ないとみてよい。

1) We must have a game one of these days. (Maugham, *Cakes and Ale*)

2) I'm so sorry, but I must catch the three-eighteen from Tercanbury.

(*ibid*)

例1) は近日中に試合があることが決定している訳で、その意味では客観的な必要を表わすと言える。この場合、we must は we shall に近い意味となり、又



### Must と Have to に関する一考察

we shall have to へ近接すると考えられる。又例2の場合は、3時18分発の汽車に乗らねばならぬ必要があるのであって、この must は have to と殆んど同義である。この関係は一人称以外の人称においても、もちろん起る。次の例をみられたい。

- 1) “Have I got to go on again to-night?” “I’m afraid you must. I tried to make it only one show a night, but he wouldn’t hear of it.” (Maugham, Gigolo and Gigolette)
- 2) Edward Driffield would soon be an old man, and must have someone to take care of him. (id, Cakes and Ale)
- 3) That moment must be recorded as the first instant of his dislike (Walpole, Mr. Perrin and Mr. Traill)

これらの例文中における must は have to と同義であろう。しかし、ここで、have to の特色的用法とみられるものについて、述べる必要を感じる。それは、次の例にみられるように、自分の意向に反して、何かをしなければならぬ義務や必要を表わす have to の用法に外ならない。

You may not want to go but you’ll have to. (Wyld, UED)

Yet, it had to be so. She did not want to do it. Yet she had to. (Lawrence, The Rainbow)

又、must は次のような用法を持っている。

‘Such places must be licensed by law’ Dr Uerringer said harshly. (Raymond. Chandler, The Long Good-bye)

Anti-Jewish decrees followed each other in quick succession. Jews must wear a yellow star, Jews must hand in their bicycles (中略) Jews must be indoors by eight o’clock and cannot sit in their own gardens after that hour. (Anne Frank, The Diary of a young girl)

上記の例文が、示すように、must は法律とか、又權威ある所から出てくる命令などによって厳しく強制されるような場合に用いられる。又、次の例文にみられ

のような用法もある。

his knighthood was but the first of the honours which must inevitably fall to his lot. (Maugham, *The Moon and Sixpence*)

perhaps they knew that a man is not what he wants to be, but what he must be. (ibid)

この例のように、運命によって必然的に或る状態が生じ、又或る行為が行われるということを must が表わす場合が多いといえる。Poutsma<sup>(9)</sup>はこの must について「話者が出来事を絶対確実に起るものと考えて叙述する、すなわち必然的運命を表わす場合と、絶対の確実性に、ほんのわずか及ばないだけの可能性」という風に分類している。後者の場合はいわゆる「～に相違ない」という推定を表わす場合に外ならない。そして、Poutsma は前者の場合として、All men must die. が代表的なものであると述べている。辞書なども、大抵この例文を示しているのであるが、このような場合でさえ、have to を用いることがある。

“Does everybody have to die?”

“Everybody” (Mansfield, *At the Bay*)

又 War must follow (研究社, 新大英和) があり、戦争は必ず起るという意味であるが、次のような例もある。Wars have to come to an end someday. (Moravia, *To Women*) しかし総じて前述の Poutsma の説が大体妥当な線を行っていると考えてよいであろう。次に must が多用されるもう一つの場合として。I must say という言い方がある。この場合の must は必要、義務の意味が弱められていて Hornby は I must ask you not to do that any more. という文を、I feel that it is necessary for me to(…) のように説明している。以下例を示す。

- 1) I must say that though I am a peasant like her, I have never in my life seen such a filthy hole. (Moravia, *Two Women*)
- 2) I must admit that, as regards provisions at any rate, Filippo had applied his ideas in a practical way (ibid)
- 3) I must confess that, as my prayer, almost against my will, gradually

extended itself more and more widely, I felt deeply moved. (ibid)

4) I must add that the rain brought discomfort not only out of doors but indoors as well. (ibid)

5) I must tell you that this Giovanni was a coal and wood merchant who had been a friend of my husband (ibid)

しかし、次のような例も見出される。

‘What have you got to say about all this, my dear Sir?’

This time the lawyer spoke up. ‘I have to say that it is indeed true. (ibid) これは前文の What have you got to say about all this? これについて、何か言い分があるか? という質問に答えたわけで、この場合の I have to say は I must say より、いくぶん意味が強いのではないかと思われる。又、統語上の理由から、must が用いられねばならない場合がある。

They said that eat they must, for it was the only way to chase away melancholy. (Moravia, Two Women)

上例にみられるように、動詞 eat を強めるために主語の前に出すような強調構文には must が用いられねばならぬことになる。次に、must と have to のどちらを選ぶかについて、Poutsma の説いている点に触れてみる必要があると思われる。Poutsma<sup>(10)</sup> は have to について「或る行動や状態を可能ならしめるために果たされねばならぬ必要条件」として用いられると述べ、又 must についても、上述の have to と全く同じ用法を認めており、その両語の選択については、その文の構造によるという風に論じているのである。そして、have to については、If you wish to catch the train, you will have to run for it. の例文をあげており、又 must に関しては、I must work hard now if I mean to take advantage of today’s sitting. の例文を始め、他に、二つの例文を示している。すなわち、Both these countries must of course come in, if the League is to fulfil its proper destiny…。及び、This must be distinctly understood or nothing wonderful can come of the story…。である。先づ、ここで、最初に気

### Must と Have to に関する一考察

付くことは、if-clause の位置の問題であろうと思われる。have to の場合には、if-clause が主節の前に出ており、must の場合には、それが主節の後に置かれている。そして、この関係が両語の選択を決めることになるというならば、筆者にはこれが疑問として残るのである。次のような例文がみられるからである。

Oh, you have to keep order if you want to teach. (Lawrence, *The Rainbow*)

So, if we wished to see the procession, we must do it from the balconies of our rooms. (Geoffrey Moss, *Defeat*)

又、上記の Poutsma の例文に示されたような、must...or すなわち、～せねばならない、そうしないと～である(～する)という意味を表わす構造についても疑問は依然として残るのである。何故ならば、次のような例文があるからである。

- 1) We have to get Julio out of here soon, or he'll die. (*Reader's Digest*, July, 1968)
- 2) It would have to be a steel spring or it wouldn't last. (Steinbeck, *The Wayward Bus*)
- 3) But I've got to work, or I should die. (Lawrence, *Lady Chatterley's Lover*)
- 4) It's got to be a sort of job for somebody else, or I should throw it up in a month, out of bad temper. (*ibid*)

上記のように、have (got) to...or の構文も決して珍らしくはないからである。さて、ここで、もう一つの看過してはならぬ問題として習慣的行為に関する問題がある。習慣を表わす場合には、疑問文では have to が用いられなければならない。例えば、At what time do you have to be in the office every morning? と書かれ、特定の一時的な場合には、Have we (got) to change train here? 或は、Must we change trains here? と書かれる。これはイギリス人の場合であって、アメリカ人は、上のように区別して書かない。例えば、次のように書く、Do you have to be home any special time? (Salinger, *The Catcher in*

the Rye)

特定の時間をきく場合でも、このように言うのである。習慣、特定の区別なく、アメリカ人は、Do you have to...? のように書くのが常識である。又否定の場合には、イギリスにおいては、Allen<sup>(11)</sup> は次のように書くと言っている。すなわち、一時的の場合には、You needn't do it just now といい、習慣的の場合には、You don't have to do it every time you see him. か乃至は、You don't need to~ が使われるのである。しかし、Hornby<sup>(12)</sup> は「some but not all British speakers make a distinction between this use of have for what is habitual, and its use with reference to a particular occasion」と述べている。つまり、イギリス人の間でも、この区別が次第になくなって行く傾向にあるのであって、前述した Greene の戯曲を例にとってもこのことがはっきりするのである。数例を示して見る。Why do you all have to make up verses about her? When do you have to report? I don't have to read any more, do I? Does anybody have to leave? 以上。have to の強調形として、have got to があることは周知のことであるが、これについて、Evans<sup>(13)</sup> は「これはアメリカでは全く容認されているが、英国では認められていない」と言っているが、これはいささか言い過ぎではないであろうか？ イギリス人の作品に have got to が用いられるのは決して、珍らしくないからである。今、若干、その例文を示してみる。

- 1) You've got to have them here, Chips. (James Hilton, Good-bye, Mr. Chips)
- 2) Every time I meet him on the stairs, I've got to hear it all over again. (Geoffrey Moss, Defeat)
- 3) Well, it's one of the things we've got to think about in any case. (Huxley, Antic Hay)
- 4) We've got to imply somehow that it's bad form not to wear them. (ibid)
- 5) You've got to stick to it all your life. (Lawrence, The Chatterley's

## Must と Have to に関する一考察

Lover)

- 6) I've got to have something that keeps me occupied. (ibid)
- 7) Robin's got to have three teeth out. (Greene, The Complaisant Lover)
- 8) I've got to finish Cataloging (ibid)

しかし、一方、have got to の過去形である had got to について、Jespersen<sup>(14)</sup> は「we had to leave him there のような文は極めてひんばんであるが、we had got to leave. は稀であり、又疑問文では、Had you got to leave him? とは決して言われぬ、Did you have to leave him? か或は、Had you to leave him? と言う」と述べている。一方、Evans<sup>(15)</sup>によれば、had got to はアメリカでは少ないが、認められていると言う。次に、この had got to の英米における例を各一例づつ示す。

- 1) I saw the secretary, and he told me I'd got to take that boat. (Maugham, Rain)
- 2) We'd got to find that boat now—had to have it for ourselves. (Mark Twain, Huckleberry Finn)

又、Crowell<sup>(16)</sup>によると、疑問文で一番多用されるのは、have to であり、次が must で have got to は稀にしか用いられないといわれる。又井上義昌氏の「英米語用法辞典」have to によると、必要を示す must は繰り返される行為についていう場合には用いられることはない。I must go to the office every day とはいわずに、ここでは Have to が用いられねばならない。但し、命令を表わす、You must come to the office every day の場合は must 正しいという意味のことが書かれているが、必ずしも、そうばかりはいえぬように思われる。次に示す例文をみられたい。

- 1) In the maternity hospitals of Santiago, pregnant women would no longer have to lie two in a bed, as they often must. (Reader's Digest, May. 1964)
- 2) The listener, in other words, must often lead the conversation. (Rea-

## Must と Have to に関する一考察

der's Digest, October 1965)

3) Every day he must tell her what he had done. (Hugh Walpole, Jeremy)

次に, must の過去用法について一言するの必要を感じず。現代では周知の如く, must の主要な機能は, その現在用法であるが, 時として, それが過去の用法を持つことが時々ある。これについて, OED は「過去又は歴史現在として, 何か愚劣な迷惑な行動や厄介な出来事に関して, 皮肉的に又は, 憤慨して用いられる」と述べている。又この種の must の用法は現在用法としてもある。今, 若干の例文を示す,

1) No, he is troublesome, but I must have him with me. (Foster, Where Angels Fear to Tread)

2) Must we pursue this horrible trend of thought? (Salinger, The Catcher in the Rye)

3) Must he entangle this woman? Must he have the horrible brail with his own brutal wife, who hated him? Misery! Lots of Misery. (Lawrence, Lady Chatterley's Lover)

以上の例の如く, must には, 強調された感情が表わされている。過去の文の中の例を示す。

1) He had no pleasure at Norland; he detested being in town; but either to Norland or London, he must go. (Jane Austen, Sense and Sensibility)

2) He valued their kindness beyond anything, and his greatest happiness was in being with them. Yet he must leave them at the end of the week, in spite of their wishes and his own and without any restraint on time. (ibid)

次に had do を用いた例文を示してみる。

1) She was invisible to them. It made them angry. Yet they had to submit. (Lawrence, The Rainbow)

2) It was Mr. Pritchard who took over Van Brunt. He hated it and yet

### Must と Have to に関する一考察

he had to do it. (Steinbeck, *The Wayward Bus*)

- 3) The sour odor that came from the laboring chest sickened him. But he had to do it (ibid)

しかし、両者には、それぞれ力点の置き方が異なるものがあると思われる。すなわち、*must* を用いた場合は、外からの不都合な事情によって止むなく、こうならねばならなかった、とかこうしなければならなかったという事に対しての、話者の感情的表現に力点が置かれた叙述であると思われるのに対し、*had to* を用いた場合は、厄介な事情が起らねばならなかったその過去の事態に力点が置かれたということができるとはあるまいか。しかし、又これとは別に、以上述べた用法に属さない *must* の過去用法が見られるのである。以下例を示す。

- 1) he realized for the first time the responsibilities of married life. He *must* save her from dangers, physical and social, for after all she was a woman. (Foster, *Where Angels Fear to Tread*)
- 2) They set without further delay to discuss the steps that *must* be taken. Hospital huts would have to be erected and quarantine stations. The inhabitants of the various villages on the islands *must* be forced to take proper precautions. (Maugham, *The Vessel of Wrath*)

例文1の場合は、He *must*… 以下は、he realized にかかる従属節になっており、又例文2で *must* が用いられているのは、その時論議された方策の内容を表わしているからである。これはいわゆる間接話法の一種であって、その時、思われたこと、又言われたこととして、話者が叙述するのである。そして、これが現代英語における過去の *must* の普通の用法とされているのである。Curme<sup>(17)</sup> はこの *must* の用法を古代、中世における過去の *moste* と関連があると見て、次のように述べている。「As they (=must and ought) usually point to the present, they have gradually come to be felt as present subjective; but we still have enough feeling for their old meaning to use them in dependent sentence as past subjunctives, as in older English」過去時制に伴う従属文に



### Must と Have to に関する一考察

おける過去用法の *must* は、古代中世における仮定法過去に由来して、過去の義務や必要を表わすというのである。他方、OED は *must* の現代における過去用法は、古代、中世の *moste* と歴史的な関係はなく、それと関連があるのは、おそらく *must needs* にある過去用法であろうと説明している。この *must needs* は、皮肉を表わす特殊ないい方で、例えば、*He must needs come* は「彼はぜひ来ると強情をはってきかなかった」という過去の意味を表わす点興味深い。しかしながら、*must* が単独で過去の文に用いられる場合がみられるのである。

- 1) With a sudden snap the bleeding desire that had drawn him after her broke. He had broken it, because it must be so. (Lawrence, *Lady Chatterléy's Lover*)
- 2) Then suddenly his eye fell on Traill, and that mement must be recorded as the first instant of his dislike (Walpole, *Mr. Perrin and Mr. Traill*)
- 3) It was a game called Yes aand No, where Serooge's nephew had to think of something, and the rest must find out what. (Dickens, *A Merry Party*)

つとに、Jespersen も指摘しているところだが、作家の中では Stevenson がもっともこの過去用法の *must* を多用している点に特徴が見られる。特に 'Kidnapped' という作品にはこれが多くみられるようで、例20以上が認められたのである。以下、若干例文を示してみる。

- 1) My mouth was so dry, I must wet it with the sea-water before I was able to shout.
- 2) When I was a little over my anger, I must eat again.
- 3) We must go five miles about to the house of what he called a rich man to have one of my guineas changed.
- 4) The sea was here very deep and still, and had scarce a wave upon it; so that I must put the water to my lip before I could believe it to

## Must と Have to に関する一考察

be truly salt.

- 5) Never a word he said, but set off running again for his life, and I must stagger to my feet and run after him.

そして、このような過去用法の *must* が用いられる理由として、Curme<sup>(18)</sup> は前述したように、従属文において普通である仮定法過去の *must* の影響を指摘しているのは傾聴に値すると思われる。又 Curme<sup>(19)</sup> は「過去仮定法 *must* は主節に位置していて、見たところ過去を指示している。しかし、過去の観念は実は文脈から、または過去時を示す文中のある過去直説法から来ているのである」と述べているが、妥当な意見というべきであろう。このような過去時制における *must* の用法から、次に想像時制、すなわち、仮定法における *must* について、少しく考察してみたいと思う。Jespersen<sup>(20)</sup> のこの仮定法の *must* について示している例はすべて～に相違ない、きつと～するというような、当然の推量を表わす *must* に関するものである。例えば、If he knew her real nature, he must hate her 又は、had it returned again immediately, I must have been strangled in the water. である。そして Jespersen は「義務」を表わさねばならぬ場合には、例えば、If all this were true, he would have to resign his office. というように言わねばならないと説明しているのである。次に筆者の手元にある *have to* の例を示してみる。

1. If a bullet found Henry's heart, it would have to pass through hers on the way. (Mackinlay Kantor, The Romance of Rosy Ridge)
2. She thought that if she were sick in here, they would have to let her go. (Eudora Welty, A Visit of Charity)
3. If she wanted to say anything to me, she'd have to write it on a goddam piece of paper. (Salinger, The Catcher in the Rye)

しかし、時には、仮定法の文の帰結節に、義務、必要を表わす *must* が用いられることがある。次例をみられたい。

- 1) <sup>1</sup> If the boy were alive, something must be done to help him. (Hugh

### Must と Have to に関する一考察

Walpole, Mr. Perrin and Mr. Traill)

- 2) If anything should happen, parents must have the wisdom and courage to call the police at once. (Reader's Digest)
- 3) Plainly the letter had come by the laboratory door, possibly indeed, it had been written in the cabinet; and if it were so, it must be differently judged, and handled with the more caution. (Stevenson, Dr. Jekyll and Mr. Hyde)
- 4) let him rage as he might, he must withheld himself. (Lawrence, The Rainbow)
- 5) If he were arrested as a secret agent he must spend at least the night in a cell. (Maugham, Miss King)

上記の例文1の場合においては、その少年が死んでいるということは確実なことではなく生きている可能性が若干ある場合のことであって、'死んでい'るという事実に反する仮定、すなわち、却下条件 (Rejected Condition) とはなっていない。現在に対する疑わしい想定に過ぎない。若しこれが却下条件であったならば、must は使われないであろう。さて、最後に、have to が普通に用いられる構文があることについて記しておきたい。それは、all I have to do is~ 型の構文である。この型は、ほとんど固定化されていると言ってもよい程多用されているのである。一部の例を示してみる。

- 1) All we have to do is to stop and let them take the liquor. (Hemingway, To Have and Have Not)
- 2) All he would have to do is just drive us at a town. (Faulkner, Sanctuary)
- 3) That's all you got to do. (ibid)
- 4) All you got to do is lay down. (ibid)
- 5) All I had to do was change allie's name. (Salinger, The Catcher in the Rye)

6) All you have to do is ask. (Raymond Chandler, *The Long Goodbye*)

### (5) 過去の文の間接話法中の must と have to について

アメリカの学者 Crowell<sup>(21)</sup> は、過去の文の間接話法では had to が用いられるのが普通であって、must はめったに使われないと述べている。そこで、筆者は、この説の妥当性について検討することにした。調査には、最近十年間の *Reader's Digest* 十冊分を使用して、間接話法中の両語の頻度についてみて行くことにした。そして、この調査の結果、have to の例が27例あり、must が15例みられたのである。従来過去における間接話法の中では、時制の支配を受けずに、must がそのまま用いられるというのが、いわば、通説とみられていたが、この調査では、むしろ have to の方が多いという結果となった。これは一応注目されてよいことであろう。それから、前述の Crowell 教授の説に関するのだが、たしかに had to の方が多いことが判明したが、must の方も、依然として、かなり用いられているのであって、must が稀にしか用いられないというのは言過ぎであるといわねばならない。次にそれら一部の例を示す。

(have to) の例

- 1) Varak knew that he had to be free of ordinary pastoral duties.
- 2) Weeks later, Mother told us we had to tear it down because it was in the way.
- 3) Sigmund Freud said that in order to have mental health a person had to be able to love and to work.
- 4) Carnarvon finally summoned Carter to England and told him that he would have to abandon the search.
- 5) I knew I had to stop.
- 6) When he cut his foot, he told his audience that his career was ruined; that he would have to play the piano with his fingers.
- 7) Mann felt deeply that education had to impart not merely informa-

## Must と Have to に関する一考察

tion, but moral ideas.

- 8) The newspapers reported that he had to be taken to the hospital in a seaplane.

(must) の例

- 1) At last Tom had to concede that he must return to the States.
- 2) When he learned that one Londoner dies by his own hand every eight hours, he swore that suicide must be stopped.
- 3) Wavewell replied that while water remained, the fight must continue.
- 4) But the commission cautioned that early—19th—century land values must be established before a settlement could be paid.
- 5) realizing that nine months of struggle had really accomplished nothing, and that I must stop.
- 6) There came a summer when Bob said we must take Sarah's great grandchildren to see her at home in Maine.
- 7) He told Hoyt and Grinwis that they must leave for the airport at once.
- 8) By nightfall Bettie knew that she must summon help or he would die.

又、次の例のように、同じ文中に、must と have to が併用された文が見られた。

In 1884 a general council of the American bishop and archbishop decreed that any Catholic parish lacking a parochial school must build one within the next two years, and that every child in the parish had to attend. must と have to の選択については、その時の書く人々の主観に影響される面があるように思えるのである。

### (6) 結 び

今迄の考察によって分ったように、意味の上からみれば、must と have to は時としては、ほとんど近似的な意味を表示することもあるが、依然として、その

### Must と Have to に関する一考察

個性的な意義を維持しているといえることができる。しかし、今、これら両語の活動範囲をみると、have toの方が大きいといわねばならない。その理由としては、mustが間接話法の場合を除けば、その過去の用法に制限があること、又不定詞も分詞形も持たないことが指摘されるのである。従って have toがこの mustの持つ制限を補足して、英語の表現に柔軟性と varietyを与えていることは否めないであろう。又、この論文でも述べたように、have toの口語性はいちぢるしいものがある。話し言葉として、have got toと共に mustに較べると、はるかに多用されていることは明らかである。つまり、have toの方が一層 softな語であると言える。mustは、学術論文や、その他堅い記事などに好んで用いられているようである。又 have toには19世紀中葉頃から have got toが発展して加わり、多用されるようになった。そして、前述したように過去の文の間接話法の中でも、have toが多用されて行く傾向があるのであるから、現代英語における have toの勢力は、なほ一層発展しつつあるといえるのである。

#### (注)

- (1) A Modern English Grammar, Part V, 13.5<sub>2</sub>
- (2) Die Zehn Hauptverben Des Englischen, p. 381
- (3) Eric Partridge, Usage and Abusage, 'negation.'
- (4) ibid.
- (5) Die Zehn Hauptverben Des Englischen, p. 428
- (6) Syntax, p. 395
- (7) An Advanced English Syntax, p. 139
- (8) 小野茂 英語法助動詞の発達, pp. 134~135
- (9) A Grammar of Late Modern English, Part 1, p. 56
- (10) ibid., p. 55, p. 57.
- (11) Living English Structure, p. 41
- (12) A Guide to Patterns and Usage in English, p. 10.
- (13) A Dictionary of Contemporary American Usage, p. 202.
- (14) A Modern English Grammar, Part IV, 4.4
- (15) A Dictionary of Contemporary American Usage, p. 202

## Must と Have to に関する一考察

- (16) Index to Modern English, must vs have to.
- (17) Syntax, p. 413
- (18) ibid., p. 413
- (19) 英文法, 貴志謙二訳, p. 306
- (20) A Modern English Grammar, Part IV, 9・5(8)
- (21) Index to Modern English, p. 229

### 参考書名

- Allen, W.S. Living English Structure  
Brunner, K. Die Englische Sprache. II  
Curme, G.O. Syntax  
Crowell, T.L. Index to Modern English  
Evans, B & C. A Dictionary of Contemporary American Usage.  
Galinsky, H. Die Sprache Des Amerikaners. II  
Hornby, A.S. A Guide to Patterns and Usage.  
Jespersen, O. A Modern English Grammar.  
Kirchner, G. Die Zehn Hauptverben Des Englischen  
Onions, C.T. An Advanced English Syntax  
Poutsma, H. A Grammar of Late Modern English.  
Partridge, E. Usage and Abusage.  
The Oxford English Dictionary. (OED)  
The Universal English Dictionary  
Webster's Third New International Dictionary
- 市川三喜 英語学辞典  
井上義昌 詳解英文法辞典  
" " 英米語用法辞典  
大塚高信 英語慣用法辞典  
" " 新英文法辞典  
小野 茂 英語法助動詞の発達  
細江逸記 動詞絛法の研究  
宮内秀雄 英文法シリーズ (研究社) 助動詞  
林 語堂 開明英文文法 (山田和男訳)  
岡村 弘 口語英語の研究

Must と Have to に関する一考察

- 植木五一 現代英文法講座（研究社）動詞（下）  
カーム 貴志謙二訳 英文法  
トルンカ 斎藤静訳 動詞文章法史的概論